

柑芦会 本部 ニュース

第 25 号 2021. 8. 1.



wakayama
univ.

国立大学法人
和歌山大学

—そして ここから—



1. 寄稿—①

遠 隔 授 業

経済学部 教授 今田秀作

コロナ禍は大学にも深刻な影響を与えているが、大学教員にとって大きな変化は、少なからぬ授業が遠隔（リモート）となったことである。経済学部での遠隔授業には主に二つの方法があり、一つはパワーポイントの資料に音声吹き込みでオン・デマンドのビデオを作る方法であり、もう一つは、TEAMS というアプリを使って同時双方向でやりとりを行う方法である。後の方法は学生数が少なければ画面に学生の顔を映すことができるので、対面授業に近い形態となる。いずれにせよ、すでに社会的には一部で実用化されてきたものの、大学にとっては近未来的な光景と思われた授業形態がにわかには現実となったのである。この稿では、主に前者の遠隔授業についての私の感想を記してみたい。

実は二つのうち、より苦勞させられたのが前者である。これは自分のしゃべりを聞き直し、何度でも吹き込みを更新できることによる。従来私は授業に先だって、ポイントとなる点だけを確認して教室に赴いた。教壇では説明の細部はさほど気にせず、学生の顔を見ながら何度かの言い直しや繰り返しを含んで説明した。ところがビデオとなると、普段に見るテレビや商業用ビデオの流暢なナレーションが頭にチラついて、言い直しができないような気分となり、それだけしゃべりの細部やテンポに気を遣うことになった。吹き込みの更新を繰り返すという手間をかけて、結果的には、従来に比べ多少とも「流れるような」説明を行うことができたであろう。

私はこの変化には、良い点と悪い点の両方があると考えている。良い点は細部にまで気を遣ったために説明の簡潔さや正確さが増したことである。ただしそれらが学生に伝わるためには、学生の方で一度切りの表現に神経を研ぎ澄ませるか、あるいは視聴の繰り返しが必要となる。他方で問題は、学生の反応次第で、説明を繰り返したり、あるいは表情や声音、身振り手振りを援用して印象を強めることが難しいことにある。簡潔かつ正確であるが平板さの印象を与えがちなビデオ講義は、授業テーマに強い関心を持つ学生には格好の教材となるが、それほどでもない学生にはとっつきにくいかも知れない。ともあれ、コロナ禍がこれまで慣れ親しんだ授業方法を反省するきっかけとなったことは事実である。

1. 寄稿一②



和歌山との縁は今も

福井支部 江波 庄進 (24期)

和歌山大学を卒業して、もう45年が過ぎた。学生時代は遠い過去になったが、今でも懐かしい和歌山との縁は切れない。濃密な4年間を過ごした紀三井寺近くの下宿(この言葉はもはや死語か)先の家族の方々や下宿の仲間、ワングル部の仲間、そして角山ゼミの仲間、さらには卒業後に知己を得た和歌山在住の方々との交流は、今日まで続いている。

数年前に亡くなった下宿のご主人の葬儀には、私を含め各地から同世代の6人が参列し故人を偲んだ。そのご主人に、麻雀や海釣りなどの手ほどきを受けたことをよく覚えている。ご一家をお招きして、何回か下宿OB会を開催したことがある。今もご一家とは親戚同様のお付き合いをしていただいております。和歌山を訪ねたときは必ず立ち寄っている。

大学のワングル部は廃部になって久しいが、OB会は数年ごとに開催しており、いつも盛況である。ちなみに、北村会長もワングルOBの一人である。私の趣味の一つである登山・自然探索は、体力・気力の衰えを若干自覚しつつも今も現役である。

角山ゼミOB会では、恩師の角山栄先生(故人)の節目のお祝い事等には幅広い年代のOBが集結したものである。他界された後、角山先生のお嬢さん(ピアニスト)が出演された、先生を偲ぶ演奏会には、和歌山経済界で活躍中のゼミ仲間と一緒に参加した。

私は大学を卒業して地元在市役所に入り、定年まで勤めた。柑芦会の後輩は市役所に3人いて、1人(福井支部の事務局長)はこの春定年となり、2人はまだ現職で頑張っている。また、私は在職中、広報を7年ほど担当していたため、記者クラブ等の報道機関との交流も多かった。そのうちの一人、某新聞記者は和歌山から当地へ転任。その縁で和歌山から高校野球の関係者や自治体の職員が当地を何回か訪れたことがあり、一部の方々とは今も交流がある。

人生とは縁であると思いつくづく思う。和歌山大学に行かなければ、私の人生は全く別物であったであろう。これからも和歌山との縁を大切に、後半の人生を自然体で過ごしたいと思うこの頃である。



2. 講師公募

令和3年 8月 2日
和歌山大学経済学部同窓会「柑芦会」
学生支援委員会

リモート配信「コロナ時代の就活学生向けの応援メッセージ」

《 令和3年度 講師公募 要項 》

【講義の概要】

- ・一企業・職種研究－(副題:職業観の醸成)
 - ・リモート配信予定日 : 令和3年10月 1日(金)～令和4年3月31日(木)
- ※この授業は、講師の採点がなく、単位は付与されません。

① 目的 :

- ・この授業は、未だ実社会を知らない学生達が、大学での学習が将来にどう繋がるかを理解すると共に、将来なすべき課題を予見し実感することにより勉学意欲を高めるきっかけを得ることが目的です。
- ・併せて、自らの今後の進路を考えるために「職業観を醸成」することもねらいとしています。

② 講義いただきたい内容 : 主に、「入社後3年間に期待される仕事」の理解を助ける内容

- ・所属業界・企業の現況、自身の仕事の具体的内容、社会や企業が求める人物像、学生向けの応援メッセージ など
 - ・講義の方法 上記の内容をパワーポイント資料に音声をつけて、大学に提出する。
- ※スマホで音声のみでも結構です。資料の提出先は、和歌山大学キャリアセンター

(アドレス: gcareer@ml.wakayama-u.ac.jp)へ

- ③ 希望業界 : メーカー・金融・保険・商社・コンサルティング・公務員など
職種 : 人事・経理・営業・企画・広告・販促企画など
- ④ 講義時間 : 1講義は2分～10分以内とします。
- ⑤ 対象学生 : 主に大学3回生。
- ⑥ 講師 : 30歳代(53期卒業以降)の柑芦会員(男女不問)にお願いします。
- ⑦ 講師謝礼 : なし
- ⑧ 公募締切 : 9月30日(木)17:00まで
- ⑨ 講師打合せ : 遠隔地の方もおられるため、メールにて打合せさせていただきます。
- ⑩ 公募窓口 : 柑芦会本部 事務局(浦事務局長)

Tel : 06-6941-4986 Fax : 06-6947-7925

E-mail : honbu@kourokai.org

3. 事務局より

柑芦会本部新メールアドレスのご案内

柑芦会本部メールにトラブルが発生し、従来のメールアドレスが「不通」となりました。皆様に多大なご迷惑をお掛けし申し訳ございませんでした。

この度、新アドレスを設定いたしましたので、アドレス変更頂きたいお願い致します。

◆柑芦会本部アドレス変更

新アドレス : honbu@kourokai.org

※旧アドレス : honbu@kourokai.com 破棄下さい。

本部事務局

和歌山大学経済学部同窓会 柑芦会 本部 事務局

〒540-0012 大阪市中央区谷町 4-4-17 ロイヤルタワー大阪谷町 207 号

Tel:06-6941-4986 Fax:06-6947-7925 E-Mail: honbu@kourokai.org





フェイスブック

ホームページ「柑芦会」

「柑芦会オフィシャルグループ」
